

小和田地区まちぢから協議会

令和5年度

「市長と語る会」

令和5年8月26日（土）
小和田地区コミュニティセンター

「市長と語る会」次第

1. 総合司会挨拶・開会宣言 川原会計 風岡副会長
2. 小和田地区まちぢから協議会会長挨拶 雫石会長
3. 茅ヶ崎市長挨拶 佐藤市長
4. 行政職員紹介 三浦課長
5. 小和田地区まちぢから協議会委員紹介 川原会計
6. 議事

第1部 部会および所属団体の報告

- 1) 交通安全部会 : 大野部会委員
- 2) 広報部会 : 飯田部会委員
- 3) 防災部会 : 豊田部会委員
- 4) こわだみらい部会 : 小林部会委員
- 5) 社会福祉協議会 : 落合役員

所感 塩崎副市長

<休憩 10分>

第2部 理想の公園とは

- 1) みんなの公園愛護会 : 梶田代表
- 2) フリーディスカッション : 三浦自治会長

7. 総評 佐藤市長
8. 閉会挨拶 下山書記

第1部) 部会および所属団体の報告

- 第1部-1) 交通安全部会
- 第1部-2) 広報部会
- 第1部-3) 防災部会
- 第1部-4) こわだみらい部会
- 第1部-5) 社会福祉協議会

第1部-1) 交通安全部会の活動報告

交通安全部会

1. みちの愛称プロジェクト
2. 月に一度の自転車左側通行啓発活動

交通安全部会 大野部会委員

第1部－1) 交通安全部会

〈部会員11名〉

- ☆川原 上赤羽根自治会
- ☆高木 本宿自治会
- ☆栗石 菱沼小和田自治会
- 川村 プランヴェール自治会
- ☆須藤 新宿自治会
- 安西 菱沼小和田自治会
- ☆大野 菱沼小和田自治会
- 竹内 赤松自治会
- ☆三浦 赤松町自治会
- 佐久間 プランヴェール自治会

- 中村 小和田小学校教頭

令和5年度より参加

☆印…まち協委員

主な活動報告

①みちの愛称プロジェクト（全5地区設置完了）

②月に一度の自転車左側通行啓発活動（東小和田交差点）

⇒ **本日詳細をご報告**

・小和田小学校1年生対象
歩行訓練



・小和田小学校3年生対象
自転車教室



・小和田小学校通学路
改善提案事前確認



・無灯火撲滅
キャンペーン



・ゾーン30キャンペーン



みちの愛称プロジェクト報告

赤松・赤松町（令和3年度上期完成）及び
菱沼小和田（令和3年度下期完成）



先日行われた推進協夜間パトロールでご紹介↑



※昨年の市長と語る会にてご報告済み

みちの愛称プロジェクト報告

本宿（令和4年度完成）



歴史を
感じさせる
重厚感ある
デザイン



海をイメージした湘南らしい装飾

本宿エリアには、鎌倉街道や江戸時代の生活道路などが数多く残っている。そんな歴史を知ってもらいたい、という思いから、他エリアとは別デザインを採用。

その一方で、湘南らしい海をイメージさせる装飾や看板も。歴史と新しく移住する人を温かく受け入れている今の地域を表している。



みちの愛称プロジェクト報告

新宿（令和4年度完成）



新宿自治会では組長及び班長約140名を対象、その後、全自治会員約1,000世帯を対象とした、計3回アンケートを取り愛称を決定した。

コロナ禍で薄れゆく人との繋がりを取り戻すべく、全会員参加を念頭に、「みちの愛称プロジェクト」を知ってもらい、参加してもらい、自身の住む街をもっと好きになってもらいたい。

そんな想いで奔走し、昨年設置まで完了。
たくさんの応募がある中で厳選した愛称、これからも沢山の人の心に刻まれていくことを願って。



月に一度の自転車左側通行啓発活動（東小和田交差点）



間隔を取り、プレートを持ちながら挨拶も♪



朝の通勤時間、多くの自転車が左側へ移ってくれるように！



青信号で一斉に自転車が発進！お気をつけて！

手作りのプレート。

奥にはヘルメットを着用した子も写っています。

着用者数

4月 7名

5月 7名

6月 15名

7月 11名

今後、着用の呼びかけ等も検討していけたらと考えています



この日は警察の方も。

やっぱり効果絶大。

いつもより左側へ移る人が・・・ご協力ありがとうございます！

暑い日も寒い日も、部会員だけでなく、自治会役員、教員、色々な方が参加してくれます！



第1部-2) 広報部会の活動報告

広報部会

1. 広報誌「まちぢからニュース」の変遷

広報部会 飯田部会委員

第1部-2) 広報部会の活動報告

広報部会のメンバー・計8名

部会長： ☆香山（新宿自治会）

二本木（本宿自治会）

池田（赤松町自治会）

☆風岡（赤松自治会）

深野（菱沼小和田自治会）

高富（プランベール湘南茅ヶ崎）

飯田（ボランティアセンター）

菅野（民生委員）

☆印…まち協委員

第1部-2) 広報部会の活動報告

広報誌・まちぢからニュースの変遷

第1号の紙面

■ 2014年2月第1号

まちぢから協議会事務局の
広報誌として発足

■ **目的**：本部広報誌として、

まちぢから協議会の概要や

本部での会議内容を説明。

※白黒画面のA4片面印刷で

自治会回覧方式とした。

(費用はほとんどかからず)

精作り=小和田=和作り
**小和田地区
まちぢから**

Vol.1

平成26年2月1日発行
発行：小和田地区自治会連合会
編集：まちぢから市民自治推進課
電話 0467-82-1111 (代表)

回覧

**地域住民に声掛け
準備会議を開催**

みんなの力をひとつに合わせて

小和田地区自治会連合会が中心となり、1月20日、小和田地区「コミュニティセンター」で新たに小和田地区まちぢから協議会(仮称)の設立準備会議が行われました。

この「まちぢから協議会」は、「まちぢから協議会」の設立準備会議で、市民自治推進課事務局は、再少年育成推進準備会議など、協議で決断を進めています。

まちぢから協議会(仮称)の設立準備会議は、市民自治推進課事務局が中心となり、1月20日、小和田地区「コミュニティセンター」で新たに小和田地区まちぢから協議会(仮称)の設立準備会議が行われました。

この「まちぢから協議会」は、「まちぢから協議会」の設立準備会議で、市民自治推進課事務局は、再少年育成推進準備会議など、協議で決断を進めています。

48名が参加し説明を受けました

話し合われた主な内容

- 設立趣意書の作成
協議の現状と協議会の必要について説明。正式な内容は協議会で作成する旨の承認を頂きました。
- 協議会設立までのスケジュール
2月から定例的(月1回程度)に協議会を開催し、規約や参加する事業の検討をし、10月の設立を目指す旨の承認を頂きました。
- 立ち上げ準備会の構成
協議会にさまざまな団体は協力いただくということで、所属団体と人数についての承認を頂きました。

このほか、まちぢから協議会(仮称)の設立に先立ち、市民自治推進課事務局が中心となり、1月20日、小和田地区「コミュニティセンター」で新たに小和田地区まちぢから協議会(仮称)の設立準備会議が行われました。

この「まちぢから協議会」は、「まちぢから協議会」の設立準備会議で、市民自治推進課事務局は、再少年育成推進準備会議など、協議で決断を進めています。

2月に準備会を設立
10月スタート目指す

協議会設立についてのご意見をお寄せください!

(仮称)小和田地区まちぢから協議会を設立するために、2月から立ち上げ準備会にて協議会のルールである規約や協議会を構成する委員などについて、話し合いを進める予定です。まちぢから協議会について、あるいは立ち上げ準備会などでご質問などがありましたら、上記の問い合わせ先までご連絡ください。




第1部-2) 広報部会の活動報告

■ まちぢからニュース第50号

(2021年6月発行) から
登録団体を順次掲載

- ・ 50号：プロジェクト報告
- ・ 51号：各部会の活動内容
- ・ 52号：6自治会の概要
- ・ 53号：参加団体の紹介
(コミセン、社協、推進協など)
- ・ 54号：参加団体の紹介
(小中学校PTAなど)

一回当たりの発行費用は2.5万円

(A4・4ページでカラー印刷

全戸配布・・・5500部)

みちの愛称プロジェクト紹介

防災×まちづくりワークショップの成果として、「みちの愛称」プロジェクト紹介

令和元年5月、小和田地区まちぢから協議会に、茅ヶ崎市都市政策課から「防災×まちづくりワークショップ」の企画が持ち込まれました。市と自治会の打ち合わせにより、本區、赤松町、赤松の3自治会を対象としてワークショップ開催を受理しました。辻堂駅西口周辺まちづくり部会を企画の受け皿とし、部会長として小宮氏が就きました。

令和元年6月の第1回企画検討会以降、合計10回の企画検討会を行い、一部名称を変えて、11月に「第1回防災×まちづくりワークショップ」がYU-ZUルームで開催されました。基調講演として東京大学加藤教授の「地域から進める防災×まちづくり」と起震車等による「体験ブーススタンプラリー」に多数の参加者が集まりました。その後、12月に第2回「まちあるき赤松探偵団」、令和2年1月に第3回「教えるマップ作成&グループ討議」等のワークショップを開催しました。



図1 第1回ワークショップ 起震車体験



図2 第3回ワークショップ グループ討議

その後、ワークショップの成果としての事業計画を練る段階で、令和2年春からのコロナ禍により作業は中断しました。令和2年8月に企画検討会を再開し、幾度かの企画検討会開催の結果、コロナ禍の中で出来ることとして、赤松町内の主要道路に「みちの愛称」を付けることに決定しました。これは、災害発生時に避難所に向かう際など、道路に名前があると極めて指示をしやすいというのが最大の目的です。

主要道路8本の案が採用され、この道路に「みちの愛称」を付けることとなりました。企画検討会で審議の結果、名前決定手続として、次のステップで行うこととなりました。

- ① 住所が赤松町の全世帯に、8本の道路の「みちの愛称」を考案し、投票して貰う。(記名投票)
- ② 投票された名前から、道路の名前として適切なものを3つずつ選定。
- ③ 住所が赤松町とそれ以外の方や、小・中学校でも投票して貰うこととし、投票箱をコミセンや複合施設にも設けた。(無記名投票)

以上の方法で行うため、投票用紙やポスターの準備を開始し、①の投票用紙を全戸配布後、1月31日(日)迄投票締め切り日としました。2月9日(火)の企画検討会にて、投票された8本の道路毎に愛称の集計を行いました。



図3 「みちの愛称」決定

その結果、3番、5番と8番のみちの愛称は、ほぼ同じものに集中していたため、無投票で決定することとし、残った5本の道路に対し、最終投票を行うこととなりました。

最終投票は、小和田小学校・赤羽根中学校からの投票もあり、さらに小和田コミセンや複合施設でも来館者が投票できるようにしました。

4月18日(日)投票締め切り後、4月20日(火)に開票し、集計した結果、506人の投票がありました。得票数の多い順に愛称を決定し、図3に示した「みちの愛称」になりました。

今回の開票結果の推移を見ると、2番の道路の愛称は、中学校の開票前までは、「チャレンジパーク通り」の方が多かったのですが、中学生の開票が進み、逆転して「チャレバ通り」になりました。

次のステップは「みちの愛称」を記した看板作成と設置です。乞うご期待。

第1部-2) 広報部会の活動報告

広報誌の見えてきた課題

- まちぢから協議会には地元で活動している団体に長い歴史がある。

(社協、コミセン、民児協など)



各団体は独自に地域の中で広報誌を発行している。
そのため、まち協として広報の必要性は低い。

第1部-2) 広報部会の活動報告

■まちぢからニュース55号の企画■

目的：地域の中で、地元の人たちのために活動する人たちを紹介（実際の担当者を抽出）

- 小学校の朝の通学路での旗振り
- 公園の草刈り作業の方々
- YU-ZUルームでのボランティアの方々



A3の8ページに約40名の紹介を行う

費用は市の特定事業として28.5万円を申請

第1部-2) 広報部会の活動報告

まちぢからニュース55号の紹介①



表紙の絵は赤松自治会の豊嶋さんの絵を使用

巻頭言は新倉会長にお願い
(小和田地区まちぢから協議会として最後の挨拶となった)

第 1 部 – 2) 広報部会の活動報告

まちぢからニュース 5 5 号の紹介②

小和田小の朝の見守り
ご自身で投稿

マンション・プランベール湘南茅ヶ崎の広報部会委員が個々にインタビューして纏めた

熊野神社のお祭りの
変遷をまとめた

● 本報自治会・プランヴェール湘南茅ヶ崎地区

「字堂の見守り(赤松寺道徳)」 二本木和久
出身地：茅ヶ崎市 茅ヶ崎在住：17年 77歳



和久さんは、自治会として何か地域活動が出来ないか意見があり、国連一歩隊の赤松道徳の神像(高麗 神さん)と北照(私が担当)で子どもたちが安全に通学できるようにおおよそ5年前より同メンバーで見守りを始め現在にいらっています。

最初は、種のチョッキを着たへんなおじさんがいるなんて思われていたと思います。年を重ねることです子どもたちも、おはよう・今朝時・ハイタッチ、最初はガーのじゅんけん。季節に「いつも見守ってくださって有り難うございます。新年から再び3年生になりました、見守って下さい」と書いていただき、6年生が卒業すると共に「いつも見守らせていただき有り難うございます」の言葉を掛けてくれました。子どもたちのためになっていると感じています。

今は、子どもたちを見守るのが一番の始まりです。いつまで子ども達を安全に通学が出来るとも見守りが出来るとも分かりませんが、元氣な朝を見守りを続けていきたいと思っています。

「ボランティアセンターのお母さん登壇」 飯田 菊子
出身地：山形県富士宮市 茅ヶ崎在住：14年 79歳



民生委員を4期12年経験し、その後市内で4巻目的の施設となるみんなのこねこボランティアセンターの開設から現在に至るまで、一貫して福祉推進での活動を継続している。

年齢を問わずなびやかな気持ちは富士宮市にて元来の中の一員として大切に育ち、その後茅ヶ崎に移ってきた後も、ご主人が大学で購買科で1年の半分以上を専攻して暮らす生活の中で、様々な家庭がより大切にされる環境で成長したのである。

今ではボランティアセンターでの活動が激増して、外出時間が多くなってはいるが、隅々まで見守ることがご主人には感謝する。そんな中、多くの方々との出会いが楽しく、またこの小和野地域の皆様方が集まりの深さの中で活動できることをうれしく思っており、そんな中まで立った自身の精神形成には、ご主人の働きが一つあったらと語るお母さんに専任さん感謝の気持ちを伝えています。

「プランヴェールの外交官」 久永 雅也
出身地：横浜青区 茅ヶ崎在住：27年 64歳



貴さんのご事業が新築の目的にあったことが縁で新築内構内近くで事業生活をスタート。平成7年にプランヴェールに入居しました。地域との関わりは新築時から約1年間の自治会委員の活動がきっかけで、創立委員会「毎年新任会長が大変だわ」と。あと1年間オババーとして務めることを認められ、やがて理事に。その後が理事との関係がきっかけで今年で12年。今の職員には社員の目録に合わせ、毎週水曜日を休む中で大切にしています。プランヴェールといえは久永さんという存在です。

「熊野神社のお祭りの変遷をまとめた」 二本木和久



昭和51年(1976年)当時の小和野熊野神社には神輿が無く、日本神社の社務所から「祭典」に参加したいとの声が上がりました。当時の神社社務所に相談し神輿渡御に参加し「小和野熊野神社奉納神輿渡御委員会青年部」を立ち上げたことですが、一部の渡御実行委員より渡御参加の理由では、神輿渡御に地域の御神は納められないので反対の意見もあり、地域の御神「神輿を渡御して渡御の場」としての活動性を高め、祭典より楽しむようということ、多くの御神に神輿渡御の場を渡御したいという声、神輿の渡御については、地域の御神よりも祭典の御神を祭り前祭典が出来るようにしました。



昭和54年6月22日、新調神輿を神社へ奉納しお祭典を行いました。同時に「小和野熊野神社」を発足し、現在は神輿渡御会として、毎年7月の満月の日「渡御祭」参加、8月1日、2日の御大祭(町内渡御)、各友好団体の神輿渡御会など活動しております。神輿祭典開催が43年になりましたが、後世に後世にこれを念頭に神輿に整備を持っていただき、小和野熊野神社祭典人をはじめ小和野熊野神社祭典一人一人が後世に思いのこめつけ管理に努めたいと思っております。

なお、祭典については、(1日)小和野熊野神社奉納神輿渡御会青年部の白井渡御様の御神をたもとに渡御をさせていただきます。

「トレードマークはジーンズとスニーカー」 下山 博
出身地：神奈川県足柄下 茅ヶ崎在住：27年 71歳



貴が多岐に渡る分野で活躍し、下山さんが育ったところは日本有数の貴族地帯でそれは格別なエリートなところだ。小学校では素晴らしい新築山荘に隣接する山荘にあり、入学のときお母さんが一人いきました。お母さんに在任はいまありません。中学校は専攻の中心で通ったそうです。

プランヴェールには平成7年7月に入居。マンションの管理人さんからお問い合わせされ自治会立ち上げのメンバーに一期の役員を任せられた。またセロからスタートした。地域との関わりは近所の平成29年から。こころのつながりを大切にしたいのがきっかけ。現在はご近所自治会、まちの公民館委員として活動中です。下山さんを助けて、自治会として歴史の長い小和野プランヴェールを築かれた方々が多いのではないのでしょうか。私たちが自治会について方々にご意見を、選挙は地味に数多くがワーキングは15歳以上の職員の存在です。

「武芸百般、合わせて〇〇段？」 原正 正三
出身地：群馬県太田市 茅ヶ崎在住：127年 73歳



原さんは様々な武芸の習得者で中でも剣道は剣士七段の達人。現在は互心会剣道部副部長の指導に、お和野中学校剣道部の外部顧問として活動されています。互心会の前身は正三先生に師事した舞鶴の剣道部で現任約40名の中高生が在籍中。お和野中学校が市内1台で剣道大会に出場しています。指導方針は「基本」と「楽しみ」です。剣道を本場内に出張したのは高松1年。貴州や地元企業への統制が主たる剣道クラブの活動(高級剣道)の指導で報告を。高校2年のときに早くも四段の資格を得た。30歳前後で六段に昇段。仕事の間でもブランクがありましたが、昭和中期には「高松剣道部副部長」の代表者に選抜され大会の指導を受ける機会を得た経験もあってあります。そんな剣道の原さんですが貴校時代は剣道として練習の経験は、正三先生から、そして今の十八歳は「あはれの一貫」です。

第1部-2) 広報部会の活動報告

■ まちぢからニュース55号を作ってみて

- 試行錯誤で苦闘したが、地域の人に読んでもらえる内容となった。
- その原因は
 - ① 堅苦しいあいさつ文としなかった
 - ② 掲載する人選を広報部員が決めた
 - ③ 各自治会担当員がその地区をまとめた
 - ④ 編集作業は専門業者に任せた（餅は餅屋です）
 - ⑤ 初めての企画をまち協として応援してくれた

防災部会

1. 防災部会の位置づけと活動内容
2. 活動内容
3. 今後の活動目標

防災部会 豊田部会委員

第1部－3) 防災部会の活動報告

防災部会のメンバー（9名）

☆下山 プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会

☆風岡 赤松自治会

齊藤 本宿自治会

大八木 本宿自治会

☆山田 新宿自治会

☆永合 赤松町自治会

豊田 菱沼小和田自治会

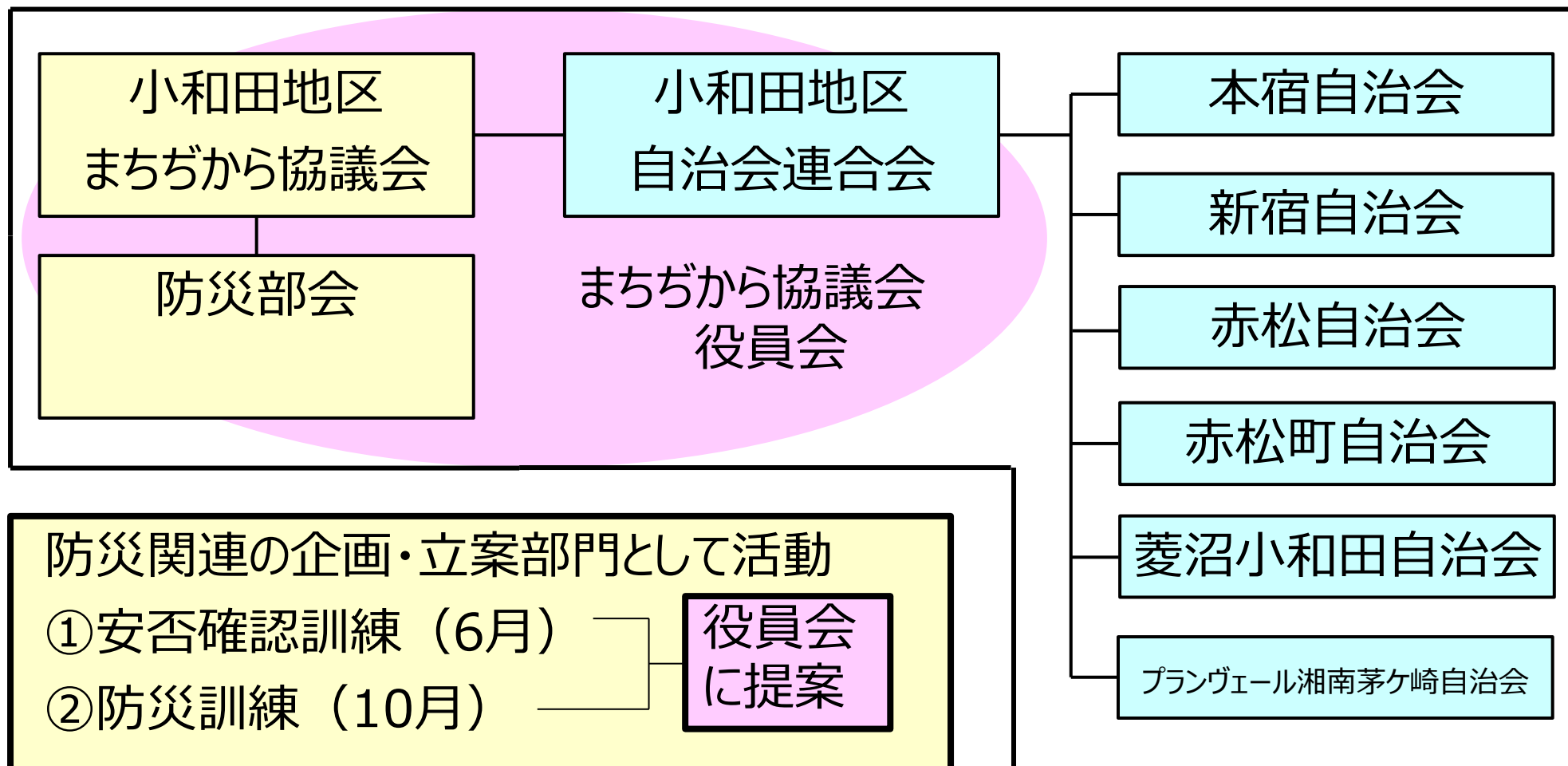
南 菱沼小和田自治会 …………… 令和5年度より参加

島 プランヴェール湘南茅ヶ崎自治会 …… 同上

☆印：まち協委員

第1部 - 3) 防災部会の活動報告

1. 防災部会の位置づけと活動内容



第1部－3) 防災部会の活動報告

2. 活動内容

2.1 安否確認訓練（6月） [5月のまち協役員会で承認]

(1)令和4年度反省会の意見・要望より、以下4項目を追加採用した。

No.	追加採用項目
1	開催時期をずらす（5月→6月）
2	訓練の一環として施設巡りを行う（23施設）
3	安否確認する住民には「避難行動要支援者」を含む
4	本部に旗と地図（報告状況掲示）を設置する



(2)令和5年度の訓練結果

	本宿	新宿	菱沼小和田	赤松町	赤松	プランヴェール	合計
対象世帯数	1,441	938	962	464	557	99	4,461
確認世帯数	1,068	880	828	412	420	93	3,701
安否確認率	74.1%	93.8%	86.1%	88.8%	75.4%	93.9%	83.0%
昨年度	70.3%	66.2%	88.0%	71.9%	71.9%	97.0%	74.2%

昨年度に対して、全体の確認率は8.8ポイントUPした。

	本宿	新宿	菱沼小和田	赤松町	赤松	プランヴェール	合計
対象施設数	14	7	6	1	1	0	29
確認施設数	13	7	0	1	1		22
安否確認率	92.9%	100%	0%	100%	100%		75.9%
昨年度							



施設確認方法の徹底不足により、一部自治会で対象全てが未確認となった。

第1部－3) 防災部会の活動報告

2. 活動内容

2.2 防災訓練（10月） [7月のまち協役員会で承認]

- (1)「避難所開設・資機材取り扱い訓練」
- (2)訓練の実施計画書作成
- (3)訓練ツール作成等による開催準備中



災害対策地区防災拠点 小和田小学校

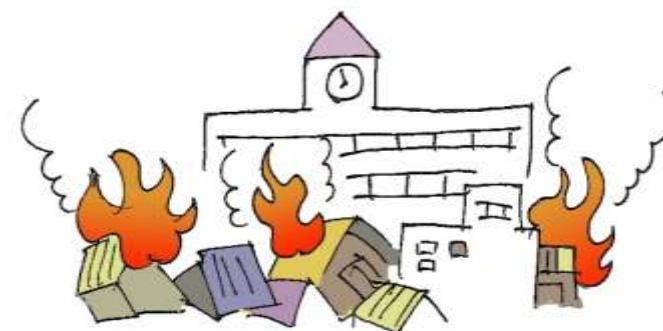
訓練対象資機材



パーティション



多目的簡易ベッド



市内全域で震度6強の揺れを観測、建物倒壊と火災発生を想定。

第1部－3) 防災部会の活動報告

2. 活動内容

2.3 コミュニティ助成事業（宝くじの社会貢献広報事業）

(1) 令和4年度に申請、令和5年度に認可：190万円

(2) 資機材の整備

			
クイックテント×4	ガス発電機×2	ファミリールーム×5	多目的簡易ベッド×5

(3) 資機材の保管：小和田小学校給食棟倉庫

(4) 資機材の利用

- ① 地区防災訓練
- ② 小学生による体験訓練
- ③ 実災害時での利用

第1部－3) 防災部会の活動報告



3. 今後の活動目標

「避難行動要支援者支援制度」への対応

■ 防災部会検討範囲：通常時の訓練対応及び災害発生時の避難支援・安否確認等

年度	行政 防災対策課等	民児協・自治会	防災部会
2023	①チェックリストの作成 市と関連部署（ケアマージャー、地域包括センター）	①「要支援者」への声掛け、見守り ②「要支援者」を含んだ安否確認訓練の実施	①「要支援者」を含んだ安否確認訓練の提案 ②6/25の訓練で実施
2024	①チェックリストの展開 ②「避難行動シート」の作成と見守り情報の反映	①チェックリストの分類に添った「要支援者」のフォロー ②日頃の見守り活動等で得た情報の都度共有	①チェックリストの分類に添った「要支援者」避難支援の検討 ②「要支援者」を含んだ安否確認訓練の継続提案



[チェックリストの分類]

A：自助の備え、安否確認

B：災害情報の伝達、声掛け・誘導、

C：見守り、移動・移乗介助

D：避難行動シート作成による避難支援の検討

こわだみらい部会

1. 令和4年度からの歩み
2. 赤羽根の田んぼ周辺の1年間の楽しみ方

こわだみらい部会 小林部会委員

第1部-4) こわだみらい部会 令和4年度から活動開始

<部会員13名>

- ☆ 栗石 菱沼小和田自治会
- ☆ 小林範 赤松町自治会
- 山田 新宿自治会
- 佐久間 菱沼小和田自治会
- 今井 菱沼自治会
- 新倉 本宿自治会
- 細田 上赤羽根自治会
- 杉本 市民自治推進課 (池亀)
- 藤尾 茅ヶ崎市社会福祉協議会
- ☆ 川原 上赤羽根自治会
- 小林 本宿自治会
- 大塚 上赤羽根自治会
- ☆ 永合 赤松町自治会

令和5年度
より参加

☆印・・・まち協委員

第1部－4) こわだみらい部会 令和4年度からの歩み

- 5/20 第1回 都市政策課より「マスタープラン「北東部地域」」プレゼン
市社協より「茅ヶ崎の地域福祉プラン2」プレゼン
- 7/1 第2回 再度、都市政策課より「マスタープラン「北東部地域」」プレゼン
松林地区細田会長、菱沼自治会今井会長、小和田地区
新倉会長も参加
- 9/2 第3回 資産管理課より「茅ヶ崎市市有財産利活用基本方針」プレゼン
都市政策課より「空き家」の現状と取組みについてプレゼン
- 11/4 第4回 農林水産課より「農業」の現状についてプレゼン
- 1/6 第5回 環境事業センター、資源循環課から「ゴミの有料化」の
現状についてプレゼン
- 3/10 第6回 取り組むべき課題について討議
- 5/12 第7回 県会議員「永田氏」より「県から見た茅ヶ崎市の位置づけ」
についてプレゼン
- 6/16 第8回 臨時部会開催し「赤羽根の田園風景PR案」検討開始
- 7/7 第9回 「赤羽根の田園風景PR案」第1弾まとめ

第1部－4) こわだみらい部会 赤羽根の田んぼ周辺の1年間の楽しみ方

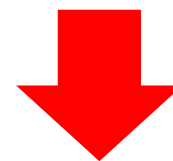
★第1弾：春～初夏編「田植え～動物の躍動」

★小和田地区、菱沼自治会の住民にビデオ映写にて

やすらぎを提供する



田んぼに映った逆さ富士



田園に足を運んでもらう
シェア・Y U - Z Uルーム等で
映写を検討

第1部-4)こわだみらい部会 赤羽根のたんぼ周辺の1年間の楽しみ方



社会福祉協議会

1. ふれあいサロン活動の拡大

社会福祉協議会 落合役員

第1部-5) 社会福祉協議会 ふれあいサロン活動の拡大

社協役員14名+ (所属自治会名)

◆ 会 長 ☆ 山下	新宿自治会	◆ 会 計	秋元	新宿自治会
◆ 副会長 ☆ 山田	新宿自治会		宮島	菱沼小和田自治会
☆ 眞壁	本宿自治会	◆ 事業担当	久永	プランヴェール湘南
小宮	赤松自治会			茅ヶ崎自治会
矢藤	菱沼小和田自治会		澤本	新宿自治会
飯田	本宿自治会		堀江	菱沼小和田自治会
◆ 書 記 落合	赤松自治会	◆ 顧 問	八幡	本宿町自治会
厚地	菱沼小和田自治会			

☆印：まち協委員

第1部－5) 社会福祉協議会 ふれあいサロン活動の拡大

◆ふれあいサロン：小和田地区在住者で70歳以上の方を対象に交流を図る活動

◆従来：小和田コミセンにて開催➡赤松町から遠く、参加者が限られていた



◆今回：小和田コミセンにYU-ZUルーム、市営小和田住宅外複合施設を加えて毎月3施設開催とした

- ☆ 自宅に近い会場に参加できる
- ☆ 3会場どの会場にも自由に参加出来る

第1部－5) 社会福祉協議会 ふれあいサロン活動の拡大

コミセンでの開催模様



新宿自治会在住の田中先生による毎日お顔のチョットした体操でしわ・たるみの改善・・・
きれいな色のお洋服を着て明るい生活を皆でしましょう・・・

第1部 - 5) 社会福祉協議会 ふれあいサロン活動の拡大

YU-ZUルームでの開催模様



包括支援センター青空の後関さんの手作り紙芝居による悪徳商法にだまされないで・・・

綾小路きみまろのビデオ
あれから40年笑いの世界で皆で
笑ってサロンの終わりでした

第1部－5) 社会福祉協議会 ふれあいサロン活動の拡大

複合施設での開催模様

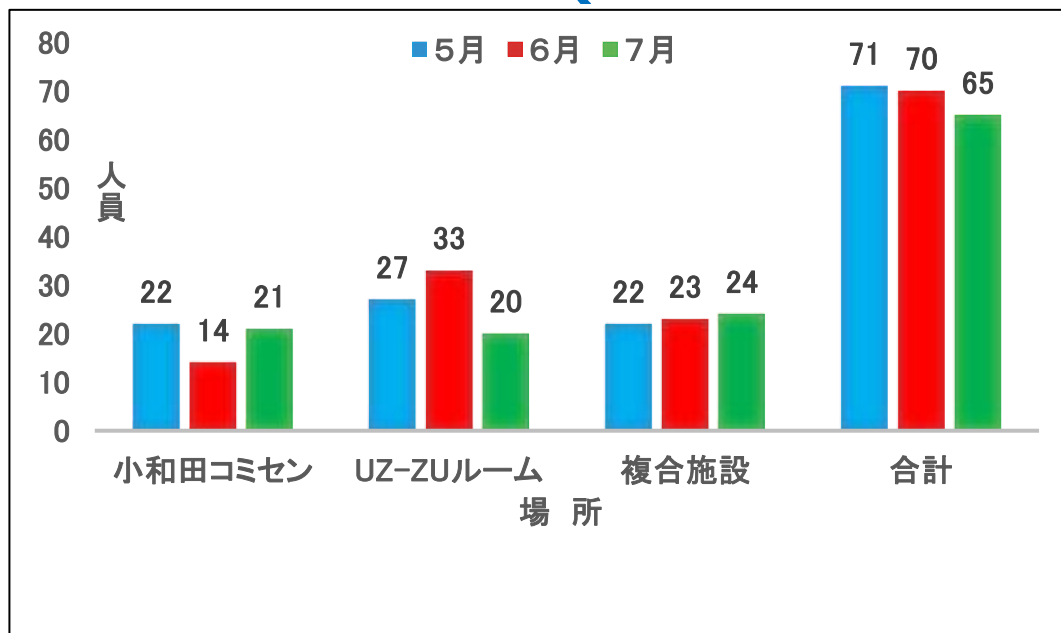


湘南ホスピタルの先生のお話
お口からおいしく食べて・健康寿命他、分
かりやすいお話をして頂きました。

第1部 - 5) 社会福祉協議会 ふれあいサロン活動の拡大

まとめ

1. 参加人員の推移(今年度)



◆ コロナ感染拡大の為中止になる前の令和元年度
参加人数 (小和田コミセン)

5月 50名

6月 60名

7月 大雨のため急きょ中止にする

2. 役員の対応

3会場開催の対応は各地区からの役員4名とボランティア登録者2名で対応していますが、開催内容によってはその限りではなく役員全員で対応しています。

ご清聴ありがとうございました



所感

休憩

【 休憩 10分 】

第2部) 理想の公園とは

第2部-1) みんなの公園愛護会

第2部-2) フリーディスカッション

第2部 - 1) みんなの公園愛護会 団体紹介と事例報告

一般社団法人みんなの公園愛護会とは:

地域の小さな公園を支える
公園愛護会や
公園ボランティアを
サポートするための団体です



2022年 非営利型一般社団法人になりました



- 1. 公園ボランティア実態調査 全国の自治体十担い手アンケート**
2020年神奈川県で、2021と2022年は全国の自治体や公園ボランティアを対象に、制度の有無や支援内容、活動内容や頻度、もたらしている価値、やりがい、課題などを調査して分析
- 2. 活動事例紹介「みんなの公園愛護活動」**
各地の公園ボランティア活動を紹介。活動の工夫や、知恵、アイデア・情熱をシェアする
- 3. 大学との連携** 大阪公立大学と大阪市でみんなの公園愛護活動の取材
- 4. 冊子「PARK NEWS MAGAZINE」の発行** 3号 計17,000部発行
- 5. 自治体との連携** 2021茅ヶ崎市と協定を締結
- 6. 公園ボランティアに関する話題提供や寄稿・講演** 国土交通省、公園財団、日本公園緑地協会など
- 7. 公園維持活動報告アプリPARKFUL Watchの開発プロジェクトチームに参加**

参考事例（1）

小学校と協働で公園清掃：三先公園（大阪市）

この事例を
もっと詳しく
みる→



毎月1回金曜日に、三先小学校の1年生から6年生までの全学年がローテーション制で公園愛護活動に参加。

小学校と公園愛護会とは20年近くの付き合い。

・毎月小学生が清掃に参加することで、地域の公園管理の担い手不足の解消になっている。

・この活動を通じて、小学生と地域の接点が生まれ、緊急時や防犯面に対する安心感を得られる。

・『地域とのふれあい』や『自分たちが使うものは自分たちで大切にする』を学べる場として学校側もメリットあり。子どもたちも物を大切にできる習慣ができマナー向上。





芝育てで地域交流：黎明橋公園（中央区）

ふかふかの芝生を育てることに特化した地域コミュニティイグシバ！プロジェクトが芝生管理をしている。

・長期的に芝生を楽しむためには今どんな手入れをすればよいか？という観点で、季節ごとの作業を細かく計画。

・ボランティア作業は、毎週日曜日の朝1時間のみに限定、小さな親子連れや、大学生、新社会人、シニアなど地域の多世代が無理なく参加し楽しく交流している。

・芝フェスやフリーマーケットなどのイベントも人気。

・つくば市竹園西広場公園など、他地域の公園にも芝育てのアドバイスをを行っている。



参考事例 (3)

地域で公園のルール作り: 阿成北公園(姫路市)

この事例を
もっと詳しく
みる→



地域の住民で話し合っ、柔軟な公園の使い方やルール作りを地域で一緒に考えている

・ワークショップでは、子どもたちの意見も積極的に聞き、年齢や立場を超えて自由に意見を出し合ったことで、公園の使い方イメージや可能性が広がった。

・できるだけ禁止事項を減らし、やりたい事をやっていこうと、町内会・老人会・消防団・子ども会などで毎月公園の使い方を話し合いながら独自のルール作りをしている。

・日常的にBBQや花火大会を行っているほか、お正月飾りを焚き上げるとんど焼きなどのイベントも行っている。



* 阿成北公園愛護会は、NHKドキュメント20min.「超現代公園学入門」でも、禁止事項や問題だらけの現代の公園に自由を取り戻すためのヒント事例として紹介されました

第2部－2) フリーディスカッション

【閉会に向けて】 地域要望まとめによる今後の取組み

① 地域集会施設利用検討

小和田コミセン、複合施設、Y U-Z Uルーム

② 公務員住宅の将来について検討

③ 空き家問題の検討

上記取組みは、定期的にフォローアップを実施する。

終了

【 終了 】

ご協力ありがとうございました。